

# 生産工程における環境負荷の低減と 環境汚染の予防にグループをあげて取り組み、 地球環境の保全に貢献してまいります。

## 三井金属グループの環境理念を お聞かせください。

三井金属は亜鉛をはじめとする鉱物の採掘を企業創成のルーツとしており、さまざまなかたちで地球から資源を戴いています。この貴重な地下資源を無駄にせず有効に使い切ることはもとより、採取した跡地の管理・再利用や生産活動により生じた排出物の適正な処理に、経営資源を積極的に投入してきました。三井金属グループは常に、地球環境の保全を経営上の最重要課題の一つと位置づけ、事業活動のあらゆる面で環境保全に配慮して行動しております。

## 2011年度の主要成果と環境関連投資・経費の 状況について教えてください。

三井金属グループはISO14001に基づいて高度な環境マネジメントシステムを構築し、万全の体制のもとで環境保全活動を推進しています。

省エネルギーに対しては、省エネ対策委員会を設置して使用エネルギーの削減に取り組んでいます。2011年度は原子力発電所の停止

により電力需給が逼迫しましたが、三井金属グループは一部事業所で土曜日および日曜日の操業を実施、地域における電力使用の平準化に貢献しました。グループ全体のエネルギー使用量は、原油換算で492kkl/年と対前年度比4.7%の減少となりました。

環境汚染物質の排出削減にも継続的に取り組んでいます。中でも神岡鉱業(株)は長年にわたって排水処理施設の改善や管理態勢の強化に注力し、排水先である高原川のカドミウム濃度について環境基準を大幅に下回る自然界レベルまで引き下げることに成功しています。また、地球温暖化の主原因であるCO<sub>2</sub>の排出量は、グループ全体で対前年度比1.4%減の1,161ktCO<sub>2</sub>/年となり4年連続の低減を達成しました。

2011年度の環境関連投資は前年度5.9%減の15.7億円でしたが、環境管理のための経費は前年度比3.6%増の35.1億円となっています。

## 三井金属グループが進める 環境経営の特長は何でしょうか。

第一は高度なリサイクル技術により資源循環型社会の形成をリードしていること、第二は環境改善に役立つ技術や製品の創出に注力していることです。

リサイクルについては、全国の所社が連携して壮大な資源循環ネットワークを構築し、亜鉛、鉛、銅、金、銀、レアメタルなどの回収と再資源化を行っています。竹原製錬所に設置した溶融キルンは廃電子基板から有価金属を回収する施設で、いわゆる「都市鉱山」の開拓に大きな役割を果たしています。また2011年度はアナログ放送の終了に伴ってブラウン管テレビが大量に廃棄されましたが、当社グループはブラウン管に含まれる鉛を回収し、自動車バッテリー材料への再利用を図っています。

環境保全に貢献する技術や製品の創出に関しては、電気自動車用の電池材料(マンガン酸リチウム)や太陽光発電向けの各種素材、人工軽量土壌に用いられるパーライトなど、さまざまな製品を開発・生産しています。2011年度は、マンガン酸リチウムへの急増する需要に応えるため竹原製錬所内に電池材料の新工場を建設し、生産体制を整備いたしました。

## グループの一員である三井金属アクトの 戦略や強みをご紹介します。

三井金属アクトは、日本、タイ、米国、中国、英国、インドという世界の主要な自動車生産国でドアロックをはじめとするドア回りの機能部品を製造し、主に日系の自動車メーカーに納品しています。いまでは当たり前になっているオートクローザーやオートステップも同社が開発したもので、その独創的かつ先進的な技術は業界でも最大級の評価を受けています。

今後、アジアなどの新興市場で自動車産業の成長が見込まれる中、三井金属アクトは中国、タイにおける生産体制を拡充するとともに、中南米市場の急伸する需要に対応するため、メキシコに2013年稼働予定の新工場を建設中です。これからも、自動車の安全走行に不可欠なドアロックのトップメーカー(世界シェア20%)として発展を続けていくものと期待しております。

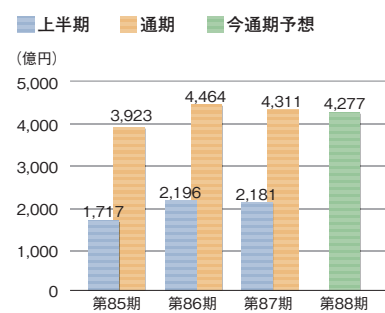
## 最後に『環境報告書2012』の読者の皆様に メッセージをお願いします。

三井金属グループは2012年度も、環境保全と安全操業に向けた取り組みを着実に実行しております。国内の各所社では引き続き省エネルギーと廃棄物の削減に取り組んでおり、海外でも地球温暖化防止の取り組みの一つとしてペルーのバルカ鉱山で水力発電所(竣工2013年5月予定)を計画、水資源の有効活用とCO<sub>2</sub>の削減を目指しています。

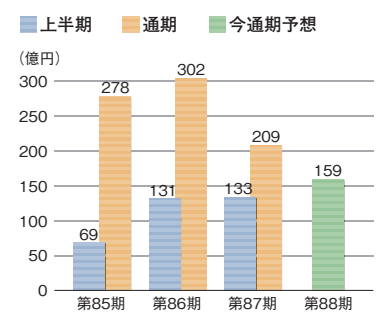
地球環境の保全なくして三井金属グループの発展はありません。これからも、高効率設備への代替や排熱回収システムの導入、廃棄物の再利用率向上等の各種施策を推進し、生産工程における環境負荷の低減と環境汚染の防止に努めてまいります。ステークホルダーの皆様には倍旧のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長  
仙田 貞雄

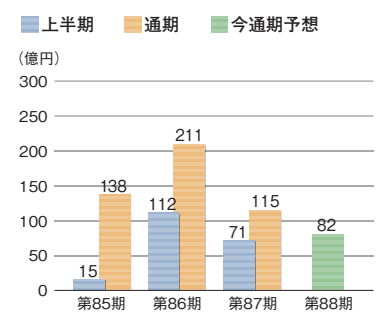
第87期決算  
売上高 / 4,311億円



営業利益 / 209億円



当期純利益 / 115億円



未来予測につきましては、平成24年8月7日現在において入手可能な情報に基づき作成したもので、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。